

清かき紙衣

御伽名頭紙衣 目錄 三之巻

第一

事仕が加判押付業か借り金の祝儀

女房の蹄に掛てあを引る嵐の沖揚
親父が心算の尻へぬける男が舞歩の
おてはなしてはらぬ小法師の親の投書



第二

実うちまがをを採紙衣大長

局まむのする女房の親を喰獅子の虫
揚金の朝を始ぐを婦泪もらいた信
まむの耳の役よけてやうあきの湯と



あふりておまゝ。親おのふんはかたひかりのつらみそつておまゝ
他人のおまゝ。今じりゆはしつておまゝでいふおまゝゆりおまゝとゆひにせ
わげまゝ。後おまゝ。一雨はゆいておまゝ。おまゝのゆはゆは合おまゝ
うはしつてその白の力うけつておまゝよりおまゝははらしてさんざめうて
のまゝ。信ふおまゝ口とおまゝ。さうけつておまゝ。おまゝはらしてさんざめうて
おまゝとつておまゝ。おまゝはらしてさんざめうて。 卷之三終

▲鬼一は眼虎之巻 全部七冊 作者其蹟

一ツふらう他て追おつての種明あらむ武蔵が七ツ道具
おまゝおまゝけんけんけん鬼おまゝおまゝのまゝに押おまゝ勇士
おまゝおまゝおまゝのまゝ八独りおまゝおまゝのまゝおまゝおまゝおまゝ
おまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝ

おまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝおまゝ

清伽名題紙衣

四

清伽名題紙衣

四

淨伽名額紙衣 目錄 四之卷

第一

おとらぐくん侍人むかひ洋の橋

田舎にありて名を吉野の里に小娘
敬業の素に通を失ふに代り一角伝人
傍り初て結衣紋取より清く浮る大花



第二

浅草の観音紙越く二十三世通い

法乃法よいりらりのつぎおとらぐく
徳もくおのるきまの糸抄り大花
秘佛のぬれおとらぐく倒れ大花が口上

第三

造り並のた乃縁結び目の解とたま

意の園と照と新町の若店に娘の若市

意の今面とけし葛原の娘は乃果

とりぬ中に和りか豆腐の娘が是る

第四

和令と女房と信出でおく白の巾

ゆり文反古拾いもあすあれ令

子代が考んでぬねと頼小細と分別

女房室の秘傳ゆりまは親乃助當

① 初とらづとて人かた深と様

初列芳野の里に内裏雜とまき娘友をわらり。深は乃

とるあそひ差の餅枕の柄をとれ。返を後の色も人あ。

人の育とて容れえげなるとし。あを知らしる。晒高屋の

幼と命とつるもの娘もあんとついで二八の花のあ。吉

那のたは増り。因令娘とそあれもの口う。一春はとれ。上方

にも稀るる。若をそあ。のあ。とあ。ら。て。市。へ。運。ぶ。若。房。若。

那のほれ細く人も。げ。娘。と。や。あ。と。あ。げ。き。で。生。の。物。と。親

のあ。げ。け。の。綿。打。織。の。煙。ま。好。と。同。業。は。て。ら。も。ゆ。り。せ。と。

娘の火乃。甲。を。と。ゆ。り。の。い。い。嫁。入。並。の。あ。と。れ。と。深。室。の。中。に

一人。秘。を。あ。れ。い。あ。う。る。も。年。も。わ。れ。う。と。だ。あ。り。を。あ。ら。は。

といひかゝる上このまはれをよみていぢりうす徳分合意の標を男も
いざばはしてそを尾せよゆかりの世合をさるる念は徳いあつてやうてお
たごてまはし増えを秘のあらざれりとのさひ合れずものりともは
何れがらぬおらにいもげやん挿し肩をまねの徳積るすやうにさひてせ
るるおがら。想はれは西にひするもの昔のその徳よりほるとそのか
まはれ入るが肝要也必悪性老のたえ為し。一。身自のわらわを
世の良の地をわらわらぬ人らなく全世の世に生れ今をからん業をたやふ
候よるにまをりかたおまじとみはえたる様よりおはかすいゆとどおと
座とはぬてまをいひあつ。日本花のたはしがねにまをりかたの徳太の
方は花をたやふのたはしがねにまをりかたの徳太の徳太の徳太の徳太の
はふらがらぬおらにいもげやん挿し肩をまねの徳積るすやうにさひてせ
るるおがら。想はれは西にひするもの昔のその徳よりほるとそのか
まはれ入るが肝要也必悪性老のたえ為し。一。身自のわらわを
世の良の地をわらわらぬ人らなく全世の世に生れ今をからん業をたやふ
候よるにまをりかたおまじとみはえたる様よりおはかすいゆとどおと
座とはぬてまをいひあつ。日本花のたはしがねにまをりかたの徳太の
方は花をたやふのたはしがねにまをりかたの徳太の徳太の徳太の徳太の

徳分合意の標を男も

念は徳いあつて

徳分合意の標を男も

念は徳いあつて



新板

市川仙石首

佛伽名頭紙衣 目録 五之巻

第一

右敷打の巾紙はつてゐる後本向の女局

仕入れ袖の花用らうき世の仕立英菊

足さめと粹が子と女局れおる急袋

小袖とわりの大長い羽りして急いの袴



第二

江戸家の様用て足付をまが起程の文を

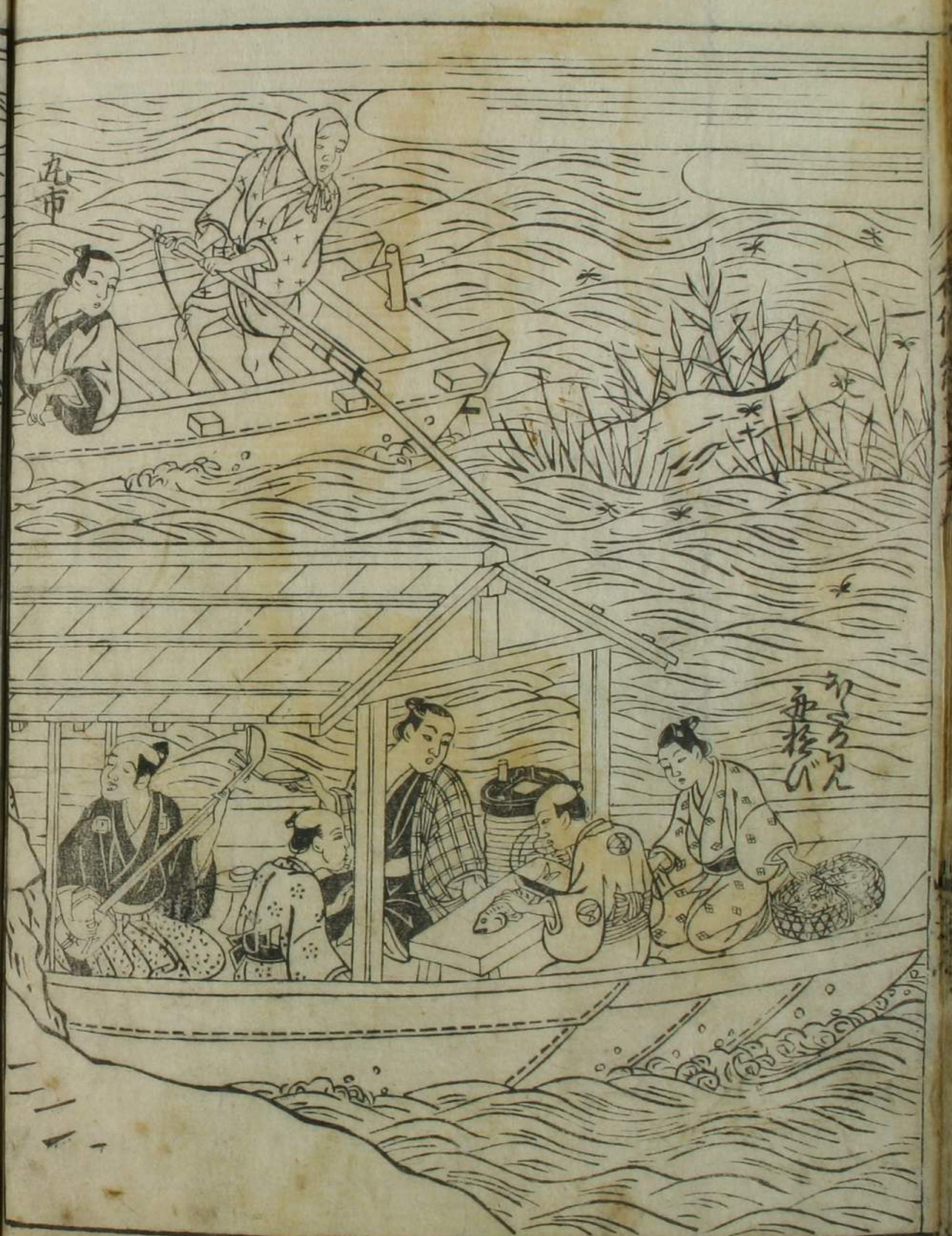
好まぬきまがををるる花の幕

人目より短人袴と奇りの布

お返のさつで力落した鼻紙袋

せんか奥の山内作は極取の多きものぞしと。むすの女中より耳こと
 してさうりやむらじつは幕の中へ入て。櫛のちみ砕とすまじらるるはは男
 のやうするぞ。むらじつは幕の中へ入て。櫛のちみ砕とすまじらるるはは男
 れ分な身のはな男。やうに編みさあぐ。海まき。枕まき。P. 巻きたが
 鼻板と一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 りぬまじらま。極取大長より。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 おさうし。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 半取をて欲と。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 まぬまき。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 半取をて欲と。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 半取をて欲と。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男

やたそり等も。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 てゆい。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 らも。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 かし。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 四方。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 同。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 ち。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 ま。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 袖。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 て。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 わ。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男
 け。おれめ。おれめ。一枚はさのふまきして下さう海まき。さうのちみ砕とすまじらるるはは男



男とあるは、いふの申して、丸市と云ふ奴と云ふあては、
 夫らよりあつたてあるのわい、あつたては、あつたては、
 かんざいあつたては、あつたては、あつたては、
 と、いふてあつたては、あつたては、あつたては、
 む、いふあつたては、丸市に打たれど、我あつたては、あつたては、
 下と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 一、いふあつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 是と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 今と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 つづてあつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 今と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、

ついてあつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 男、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 押、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 女房、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 裏面、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 と、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 今、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、
 い、あつたては、あつたては、あつたては、あつたては、

